

# 大阪大学図書館報

Vol.30 No.2 Sept. 1996 (平成8年) 通巻123号

## 目次

- Medline ユーザー会のできるまで
- インターネット上のサーチエンジンについて
- 教官寄贈著作図書
- お知らせ・会議・日誌

### Medline ユーザー会のできるまで

黒澤 努

はじめに

図書館の広報担当の方から図書館報の記事の執筆依頼があった。これは私が医学部の1研究者として医学系のdatabase“Medline”のサービス開始に多少関わったことから依頼したとのことであった。それまでの図書館報を拝見するときさすがに大学の基盤である図書館の発行するものだけあって、大変に重厚な文章がつぎつぎと見つかった。安請け合いはしたものの、もとより私などのような浅学非才なものにはとうていそのような文章を著すことはできそうもなく思われた。折り悪く胆石症を患い、9月には手術をしなければならないとのことと締め切り日を考えると気が重くなるばかりであった。さらに入院中にでも書こうかと思っていたが、入院中というのははなはだ忙しいものでやれ検査だ、検温だ、教授回診だということで重厚な文章を考えるだけのまとまった時間などとれたも

のではない。そうこうするうちに退院の日がきてしまい、さらに原稿の締め切り日もすぎってしまった。

そこで今回は重厚な文章はきっぱりとあきらめ、実際にMedlineサービスを図書館に行っていた経緯についての裏話を軽く紹介することでその責を果たしたい。

そもそも私が医学部のコンピュータに関してたまげたのは大阪大学に赴任した今から10年前である。それまでもコンピュータを研究の道具として使っていた私は、阪大医学部ではコンピュータを駆使した、じつに広範な研究が行われていると聞かされ、期待に満ちて赴任してきたのであった。巷の情報によれば阪大ではすでに人工知能を駆使した、疾病の自動診断システムが完成しているはずであったし、大規模な画像解析がなされているはずであった。

現実には医学部内をいくら探してもコンピュータの姿は見えず、みつかったのはパソコンだけであった。しかたなく高価な計測機器に附属するデータ解析機器を購入する予算の一部を頂きWSを数台購入し、医学部内にイエローケーブルを引き回し、uucpにて工学部通信工学科に接続させていただいた。このときにたくさんの方の応援をいただいたが、とくにご協力いただいたのは当時医学部の第3解剖学講座にいらした辰巳先生（現札幌医大教授）と当時の上司である医学部の浜岡教授、工学部通信工学科、中野先生（現大阪市立大学教授）であった。これによりtelnetにて他所のコンピュータをようやく利用出来るようになったばかりでなく、当時は一部のコンピュータの専門家だけが利用していた電子メール、電子ニュースを利用できるようになった。このときにネットワークの構築というのは機器の準備だけでなくヒトの輪を作ることであることを知らされた。

#### 新しいキャンパスでのネットワークの構築

一度おいしい汁（自分の所には安い端末だけを準備して、高価なコンピュータはネットワークを経由して他所のを使わせていただく）を吸ってしまうと欲望はとどまることを知らず、Databaseの検索もなんとかその方法で利用できないかと考え始めた。医学部の方向は私の欲望とは全く別の方向を向いていて、医学のDatabaseとしては安価ではあるが大変重要なMedlineをCD-ROMにて検索するstand-aloneのシステムを購入することとなった。これはネットワークでコンピュータを利用する方向とは全く反対であった。

中之島時代は我慢できたが、せっかくわが国のネットワークの中心地の一つである大阪大学工学部、大阪大学大型計算機センターと同一の吹田キャンパスに移転するのであればそのときこそ自分の欲望を満たすことを企画した。まずは医学部の校舎内にネットワークを張り巡らせることとした。当時まだ標準化されていなかった

た10 base-Tの企画を先取りして、偉い先生方をたきつけてなんとかツイストペア線を張り巡らせることに成功した。

ところが他部局との接続となるとこれまた至難の技で、私の研究室から目と鼻の先にある大型計算機センターへの接続すらなかなかできなかった。結果としては当初電話で（当初は内線電話も使えず中之島時代と同様に外線経由のuucpであった）、古巣の工学部通信工学科に接続させていただき、続いて、SLIPにて大型計算機センターと接続した。このSLIPも何とかして内線電話の空き回線を利用させてもらおうとあちこちの関係部署をお願いして歩いたものである。

結果として接続されたときの経路は驚くべきものであった。すなわち私の研究室の壁にしているツイストペア線に接続される情報端子から、その階にある集線装置に回り、これが大型計算機センターとは全く別方向の医学部全体の集線装置にはいることとなる。ここからようやく大型計算機センター方向にある医学部団地用特別高電圧棟に向かう。ここから急に進路を変えて微研の近くにある工学部の集線装置まで一旦、引き回され、そこからようやく大型計算機センターに向かうという、とんでもなく長い経路を通るものであった。それでも当時のSLIPのスピードは9600 bpsであったが、それまでのuucpでも数十万円のtrailbrazerを使って同じ速度であったから、わずか数万円のモデムを1対購入することにより、つねにネットワークに接続されている感激は大変大きいものがあった。

#### Medlineのオンラインでの利用

当時生命科学図書館ではnetwareとCD-ROM exchangerを用いた、Medline Databaseのサービスがすでに開始されていた。そこでこのnetwareを医学部内まで延伸することを画策したがこれは物理的に無理であることが分かり断念した。とそのとき、大阪大学全

学ネットワーク (ODINS) が敷設されることとなり、医学部の建物内までは幹線がひきこまれることとなった。そこで従来からのネットワークとこの幹線 (ルータ) の接続をせんものと旗を振っていたところ、医学部が移転のために準備していた予算の一部をネットワーク充実に使っても良いとお話が出てきた。しかしそれはとんでもない高額で、予算はいただいたとしても、ネットワークを有効に使えなかったときにはどのように責任をとればよいのだろうと、大変不安に思ったものである。

こうしてネットワークが整備されるとその有効利用を考えねばならなくなった。本来は自分が便利になるために旗を振っていたのいつのまにか義務化してきてしまった。当初考えたのは電子メールの活用法と WWW サーバのたち上げである。しかしこの両者は今まで医学研究者が使っていた道具ではない。やはりたくさんの方に利用していただくには、従来も使っていた不便なものが便利になるときである。そこで Medline を研究室にいながらにして検索できるシステムを構築することを考えた。

医学部では臨床研究を行うかたも多く、彼らは患者さんを片手に抱えて研究をするわけであるから、常に床に臨んでいなければならず、図書館へ文献検索にゆくなどという時間はほとんどないのである。彼らにとって研究室、あるいは医師控え室で文献検索ができれば、これは便利この上ないことなのである。そこで生命科学図書館の CD-ROM exchanger でサービスされていた Medline に再度着目し、何とかこれを医学部のネットワーク上から利用できる方法を模索した。これは種々の理由でついに断念したが、この経緯で一番障害となったのが図書館の中にコンピュータおよびネットワークのことを理解しているかたを見つけることができなかったことである。

#### 大阪大学図書館学術情報サービス事始め

たまたまある委員会で図書館のシステム管理

掛長とごいっしょする機会があり、その当時の問題点を申し上げたところ、図書館では学長から特別の予算をいただいて Database サービスを行うハードウェアは準備できていて、Database もとりあえず安価なもので実験したいので Medline あたりを考えているとの構想を聞かされた。そこで自分の利便と上記医学部予算をネットワークに使わせていただいた義理から、全面的に協力したいので是非推進していただきたい旨お伝えした。

こうして具体的な作業が始まったが、最初は全くのすれ違いで、本当にネットワーク上での Medline サービスが可能になるのかさえ疑わしかった。主たる考えのずれは、こちらはとにかく一刻も早く Medline を使いたい的一点張りで、図書館はサービスの公平かつ安定的提供を長期的な視野で考えている点である。

最初の具体的な作業はマニュアルをどうするかであった。英文の大部なマニュアルはあるがこれをどのように配布するか、またその日本語化はどうかと言った問題である。前者は online マニュアルがあることがわかり解決、後者はそもそも Medline は英文の Database なのだから不要ではないかと主張した。そこで間をとって、全文は不要としても重要な部分だけはボランティアが翻訳して、WWW サーバにて公開することとした。医学部ネットワーク WG (医学部のネットワークを管理するボランティアワーキンググループ) の若手が快く翻訳を引き受けてくれた。

次の難問は検索 tool の配布方法であった。当初は各部局にフロッピーで配布することを計画されたようであったが、試用したところ若干の設定が必要なことが判明した。そうすると、tool の install の説明書を作らねばならぬようになった。これは一番使いたいのは医学部であるからと、また医学部ネットワーク WG の若手を督励して、install 時の設定ファイルともども医学部の ftp サーバからネットワークを介して配布することとなった。

この tool のネットワーク経由の配布は大成功で、配布の手間は全くかからず、versionup にも容易に対応でき、install 法の説明などの言葉足らずの点は順次説明を WWW サーバに追加することで解決できる。すなわち窓口にはだれもいなくても大阪大学の方は自由にいつでも (24 時間) その tool を取り寄せ検索を開始できるわけである。

現在もこの URL は最も忙しいもののひとつとなっている (<http://www.med.osaka-u.ac.jp/medline/access.html>)。大学外からもたくさん tool を取りに来られているが、現在この Database は学内でのみ利用が可となっている。

それでもなかなかサービスは始まらなかった。律儀なシステム管理掛長を半ば脅すようにして理由を尋ねたところ、サービスを開始してもトラブル時の相談に図書館はのってあげることができない、部内で相談窓口担当者の教育等を行ってからサービスを開始したいという、一刻も早く使いたい私には全く理解できないお話を聞かされた。そこでここは知恵のだしどころと考え、“トラブル時の質問は電子メールにて行い、その宛先もユーザー会を組織してそのユーザー会宛に行く。”という提案を行った。

これは医学部にある共通利用施設で良く行われるやり方である。最新の共通利用機器を導入した場合、その使い方を一番良く知っているのは、その機器の導入を推進した、いち早く使いたい研究者である。したがって後進は先人に尋ねるのが一番手っ取り早い。下手に機器を管理している方に聞いても、実際的なコツなどは教われない。ということで“決して図書館にネットワーク上のトラブルなどを電話で問い合わせることなどさせない。最初に便利に使った者がなんとか案内するようにするから、サービスを開始してもらいたい”と懇願したわけである。当初 (ひょっとすると現在も) 実際の相談の答えはこれまた医学部ネットワーク WG のメンバーであった。

さらに今度はサービス停止などのお知らせをどのように行うかを解決しなければならなかった。従来であればかなり以前から入念に開館時間、閉館時間 (利用時間) などのお知らせしても徹底しなかったという経験からのお考えとは容易に想像できた。逆にいえば利用したいときに利用できないと激しく抗議するかたが出るのであろうと思われた。すなわちトラブル時の情報は利用してる側から発せられ、図書館からその回答が出されるが、サービスの利用計画については逆に図書館から情報が発信され利用する側にまんべんなくかつ timely に伝達されなければならないとのことである。すなわちこの状況では情報の双方向性が要求されるのである。これまたユーザー会が有効に使えるものと考えた。すなわちまんべんなく利用者に情報伝達するためには、利用者が黙っていてもそうした情報を伝える仕掛けが必要と思われた。これは利用者の義務としてユーザー会に参加 (ML に名を連ねておく) してもらい、そこ宛に通知すれば良いこととなる。その情報を見逃すのは利用者側が悪いのであって図書館側は何月何日、何時何分、何秒に通知したファイルだけのこしておけば免責という考え方である。

とはいっても大阪大学にも部局は大分増えた。そこでユーザー会を束ねるユーザー会の幹事会のようなものを組織した。現在の db-adm@ml.med.osaka-u.ac.jp である。すなわち各部局は 2-3 名の幹事をノミネートし、そのアドレスを束ねて ML としたのである。要するに図書館からのお知らせはこの ML に流すと逐次転送されるようにしたのである。しかし、図書館の方は情報の伝達をよほど念入りにやりたいものとみえ、これ以外に db-notice@ml.med.osaka-u.ac.jp という ML を作り、お知らせ専用としている。

こうしたユーザー会 (実体は ML、実際の物理的に集まる会議はしたことがない) および db-adm などの ML を作るというのはネットワークを利用するための第 1 歩である。当初ネッ

トワークの推進に旗を振っているときに教室の若い先生が、“電子メールを使っても相手がないので使う意義がない”といていたときがある。こうした方にMLに参加していただいて、そこ宛にサービス利用に関するお知らせがくるとなるとネットワークを利用せざるを得なくなるのである。むやみにつくるのも何であるが、適切なMLを容易に作る事がネットワーク利用技術のもっとも基本的なものであり、またこの利用によりいかに手間をかけずにサービスを行うことができるようになるかが明らかとなった。

そのほかにも解決しなければならぬいくつかの問題があったが、そのために普段は電子メールでしか会議をしない者を集めて物理的な会議らしきものを開催したり、全学的なユーザー組織を構築するためにメーリングリストを作成したり（実際はすべて自動化されており、その方法をWWWサーバで案内してるだけだが）ネットワークを巧みに利用した方法と従来の方法をうまく組み合わせてサービスをしていただけるようにお手伝いをした。

こうしてめでたくMedlineが研究室に居ながらにして使えるようになると驚いたことに、いままで文献検索というのを図書館でやるものと決めつけていた自分が発見され、またDatabaseの利用法も単に文献を検索するだけでなく、新しい用語の意味、概念を知るために用例を見にゆく、最近のある分野の研究の動向を知るなど、それまで想像しなかった使い方を始めるようになった。うわさによれば、偉い先生は教授選があるときだけMedlineを引いて候補者の業績の内容を確かめるのだという。本当にありそうな話であり助教授である私をドキドキさせるようにもなった。逆に自分の業績集をざっと作る必要が出た際は、Medlineで自分の論文を検索して、それをリストにするなどという怠慢人向けの利用法も編み出した。

こうして大阪大学のネットワークを介した学術情報検索は格段に便利にはなったが、

Medlineだけが医学生物学のDatabaseではない。これ以外にも速報性のあるCurrent ContentsならびにExcerpta Medicaなど他の重要なDatabaseサービスの開始が早急に望まれる。

#### 今後の図書館のサービス

医学部にネットワークを構築するための旗を振り続けて10年がたとうとしているが、研究教育活動を行うにあたっては大変便利な環境となった。そこで今後の図書館のサービスについての夢を少し書かせていただく。

残念ながら研究上の資料がすべて電子化されたわけではないので、ネットワークを利用するだけではすべての情報は集まらない。しかしすでに電子化されたjournalも刊行されているので、今後は出来るだけこうした電子化された情報を図書館は蓄積すべきである。すなわち電子図書館の設立である。実際には目録だけ作っても良いのだが、このための機器は勿論、人材を育てる必要がある。

続いて主要な文字情報の電子化である。英文は勿論、最近では日本文についてもかなりの精度で文章を電子化する機器が開発されている。さらにこれらの自動化技術は大変なスピードで進行しているようである。帰宅前に本を放り込んで置けば翌朝にはすべて入力されていることになる可能性も高い。とすると図書館ではどんな情報を電子化するかの優先順位についてよほど確かな目をもって決めていただかなければならない。また画像情報はいまだ電子化されたものは少ない。生命科学図書館のビデオを閲覧するコーナーはいつもひっそりとしている。このスペースを電子化した画像情報のために有効に使うことは出来ないか？ 豊中の本館ではすでに情報処理教育センターの端末が10台設置されたと聞く。まず検索用には端末を設置し、現在蓄えているビデオをすべて電子化してオンラインで提供できないか？ 現在のパソコンでさえ、ビデオを電子化できる。こうしたアナログ、デ

デジタル変換機器群を準備できないか？

つぎに昔の図書館では当たり前であったと聞く大学人の知識の収集と整理である。せっかく大阪大学という総合大学に所属しながら、他の先生方が一体何を専門とされているか、そこでの業績はどのようなものがあるかは全く知らない。医学の業績でさえ、Medlineで検索してみても始めて、隣の教室の先生のご専門が明らかになるという現状である。そこで図書館には各人のもっている知識の Database の作成をお願いしたい。最も簡単なのは、それまでに刊行した、文字情報を、それを作成したときの電子文章があればそれをそのまま使い、過去のものについてはまず集めた業績別刷り（コピー）に従い、目録を作成し、やがては上記電子化機器を準備して全文 Database を構築する。また業績はかならずしも論文、図書として発行されるものばかりではないので、その Database も構築する。さらに大学人というのは非専門の分野でも活躍される方も多いので、非専門分野の目録なども必要かもしれない。本人のものばかりでなく、研究の過程で収集した電子化された情報をいただいて整理して所蔵することも今後は必要となるかもしれない。従来は各研究室

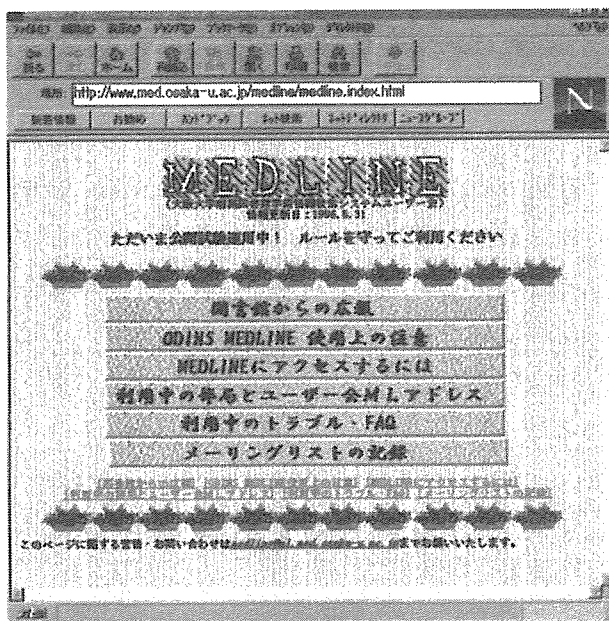
に埃のもととしてだけ文書が積んであったが、電子化されたものであれば Database 化がすすんでいけば有効に利用できるわけだから、こうした蓄積も図書館が担うことが必要かもしれない。

こうして情報が Database 化されると、そのサービスはなにも大学内に限ることはなくなる。医学部にいると大阪大学のスローガンが“地域に生き世界にのびる”というのが実感される。それは大阪大学は大学だけで構成されているわけではなく数多くの関連医療機関、研究機関をも包含して存在しているということである。この見地から、収集した情報はこれら地域関連研究機関と共有することが望まれる。さらに全国的にその情報を提供することですらなんらの投資をせずに行え、国際的に利用していただくことさえインターネットを利用すると可能な時代となったのである。

こうしたことを実現するためには、図書館内外の情報伝達をネットワーク経由で行い公開する。自分たちの利便のための情報の Database 化をまず行うなどの内部努力が必要であろう。

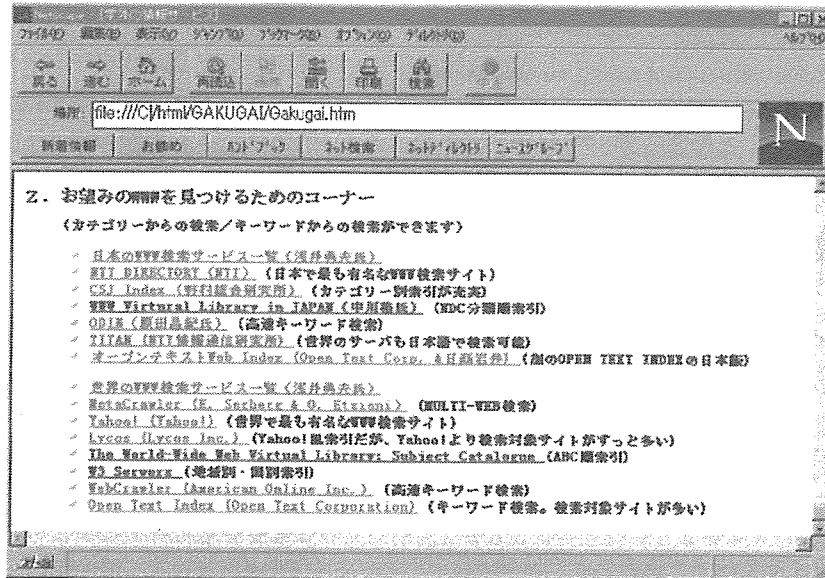
(医学部助教授 くろさわ つとむ)

(医学部 Medline ユーザー会ホームページ)



## インターネット上のサーチエンジンについて

藤田 弘



(図1) Z. お望みの WWW を見つけるためのコーナー

(大阪大学附属図書館ホームページの「●学外の情報サービス」の中にあります)

### ◆サーチエンジンって何ですか？

『MS-DOS ってなんですか』という本がありました。『インターネット用語図解 640』(新世代出版研究所編著 1996.3 ソフトバンク発行)によりますと、サーチエンジンとは、「インターネット上のどのコンピュータにどのような情報が蓄積されているかを検索できるホームページ、あるいはそのホームページを公開しているホストコンピュータのこと。」と書かれています。

この本の中にも強力エンジンをもつ Alta Vista やニュースネットの検索に威力を発揮する Deja News Research Service 等いくつかのサーチエンジンが項目としてあげられていますが、以前担当しました、大阪大学附属図書館のホームページの〈学外の情報サービス〉の Z. お望みの WWW をみつけるためのコーナー(図1)の解説等を中心に、サーチエンジンのことを述べてみたいと思います。

### ◆Z. お望みの WWW をみつけるためのコーナーの作成の経緯ですが…

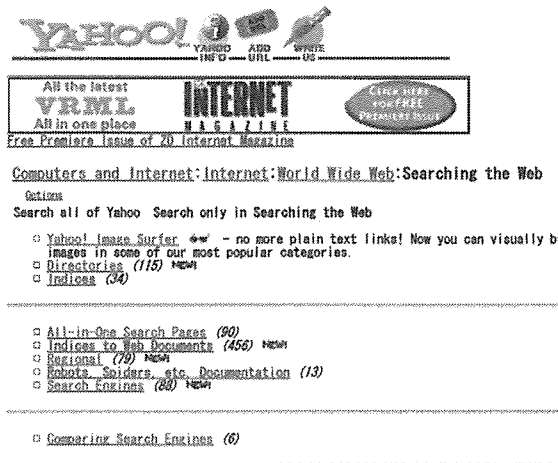
〈学外の情報サービス〉を作成する際に、A. 図書館関係から H. アジア関係までのリンク集の例示だけでは、とてもインターネットの色々な情報を探すことはできないと思いました。それで、少しでも容易に利用者の皆様にインターネットの情報を提供できればよいと思ひまして、この Z. のコーナーを設けて整理してみました。

### ◆日本・世界のサーチエンジン集について

Z. のコーナー作成の際、日本・世界にはどのようなサーチエンジンがあり、どれが利用しやすいかと調査しましたが、特に参考になりました本は『インターネット情報検索ガイド』(吉田広之監修/高橋利之 1996.1 光栄発行 1500円)でした。なかなか優れたものです。

この本の第2章「WWW サービスをネットサーフィン!」の「5. ナビゲータ」で、数多くのサーチエンジンについて、ホームページの

Yahoo! - Computers and Internet:Internet:World Wide Web:Searchhttp://www.yahoo.com/Computers\_and\_I...eWorld



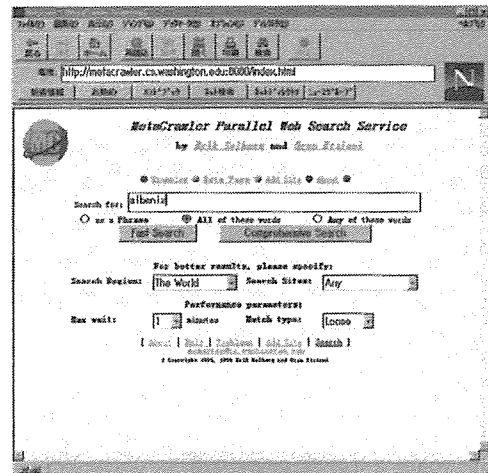
(図2) Yahoo!の Searching the Web のページ  
 -世界のインターネットのサーチエンジン  
 を見ることができます-  
 [注] あるキーワードで検索して、ヒットした  
 後、最下部に表示される more をク  
 リックすると表示されます。

写真入りで記述されていたので、これを基  
 にして、いくつか実際に検索をし、収録対象・  
 検索スピード等をチェックしまして、図1のよ  
 うに、日本と世界に分けて、各5点ほどリンク  
 を作成しました。(今年の3月)

それと平行して、WWWを検索するための  
 ホームページを集めたサイトがないかと調べて  
 いました所、『Internet Guide』という雑誌に  
 浅井先生の作成されました【検索デスク】のこ  
 とが掲載されていまして、早速アクセスしまし  
 した。その【検索デスク】から、国内と海外の  
 WWWのサーチエンジンの一覧表を見つけま  
 したので、リンクを張らせて頂きました。それ  
 が、「日本のWWW検索サービス一覧」と「世  
 界のWWW検索サービス一覧」です。

その他、国内では<ODIN>という優れたサー  
 チエンジンのホーム頁にも [他のサーチエンジ  
 ン] という項目があって数多くリンクが張って  
 あります。

海外では<Yahoo!>という世界で最も有名  
 な所が集めた Searching the Web という頁が



(図3) MetaCrawler のホームページ  
 -有名なサーチエンジン約10を一気に検索-  
 (筆者が最近聴いているスペインの作曲家  
 Albenizで検索。似顔絵のあるページもあり  
 ました。)

あります(図2)。Search Engines (88)とい  
 うように、これだけで百近くあります。それか  
 ら Regions (79) という箇所では、各国別の  
 サーチエンジンで検索できるようになっていま  
 すので、ヨーロッパ・アジア等についての検索  
 の際には有効かもしれませんね。また、All-in-  
 One Search Pages (90) は複数サーチエンジ  
 ンを1頁で検索できるメタサーチエンジン集で  
 す。この中の MetaCrawler [http://  
 metacrawler.cs.washington.edu:8080/]  
 (図3) は有名な約10のサーチエンジン  
 (Open Text Index, Lycos, WebCrawler,  
 Infoseek, Excite, Inktomi, Alta Vista, Ya-  
 hoo, Galaxy)を一気に検索し、一気に表示  
 してくれて便利です。

◆日本・世界のサーチエンジンでの検索につ  
 いてですが…

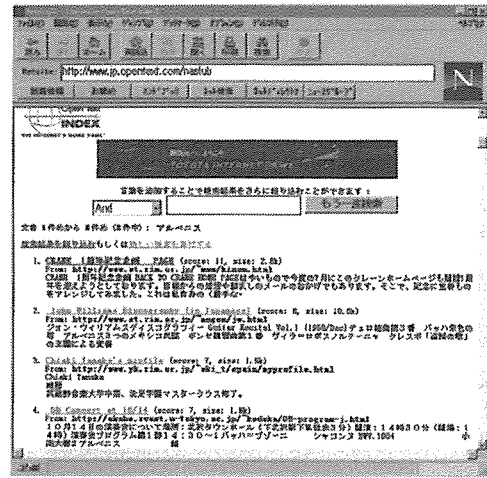
インターネット上の情報をサーチエンジンで  
 検索する方法には、2つの方法があります。

[1] カテゴリー(分野・地域等)別のリストか





(図4) オープンテキスト Web index のホームページ  
 -英語版へもここからアクセスできます-



(図5) オープンテキスト Web index の検索結果のページ  
 (アルベニスで8件ヒット)

らリンクを辿っていく方法

下記のサーチエンジンを利用。(図1では上の方にあります) (\*)はキーワード検索も可。  
 (日本) NTT DIRECTORY(\*), CSJ Index, WWW Virtual Library in JAPAN  
 (世界) Yahoo!(\*), Lycos(\*), The World Wide Web Virtual Library, W3 Servers

Yahoo! は日本版が4月にできました。また、Lycos は最近、画面が大きく変更されましたので、Sites by Subject をクリックして下さい。

[2] キーワード (言葉) から検索する方法

下記のサーチエンジンを利用。(図1では、下の方にキーワード検索専門のサーチエンジンがあります。)

- (日本) NTT DIRECTORY(\*), ODIN, TITAN, オープンテキスト Web Index
- (世界) MetaCrawler, Yahoo! (\*), Lycos (\*), WebCrawler, Open Text Index

オープンテキスト Web Index (図4) からは、英語版へアクセスできて便利ですが、英語

版の SIMPLE SEARCH の画面が出てきます。POWER SEARCH をクリックしますと、日本版とよく似た画面に移ります。その他にも、検索画面が2種類 (簡略版と詳細版) 用意されているものがあります。詳細版へ移行するには、Yahoo! なら Options をクリック。Lycos なら Custom Search を。また、最近 Yahoo! で採用されました、Alta Vista では、Advanced Search をクリックすれば OK です。

その他、詳しい検索方法は、各サーチエンジンの HELP, FAQ, SEARCH TIPS 等を参考にして下さい。

◆参考資料ひとつだけですが

和雑誌『Internet Magazine』20号 p. 212-223 (1996.9) 「ほしい情報への近道 WWW 検索サービスを使いこなそう」[本館で購読中]

最後に、幻の項、I. 大阪情報のリンク集を紹介します。少し重いかもしれませんが、興味のある方はご覧下さい。http://www.meshnet.or.jp/osaka/osusume/index.html (^\_^);

(和書目録情報掛長 ふじた ひろし)

■■■■■ 教官著作寄贈図書 ■■■■■

—本館—

平田達治 (言語文化部 教授)  
ウィーンのカフェ 平田達治著  
(大修館書店 1996)

林 毅 (法学部 教授)  
司法への民衆参加 林毅、佐藤篤志編著  
(敬文堂 1996)

原田平作 (文学部 教授)  
芸術の楽しみ 原田平作、神林恒道編  
(晃洋書房 1996)

—生命科学分館—

畠中 寛 (蛋白質研究所、教授)  
絵ときタンパク質と遺伝子 池内俊彦、畠中  
寛共著  
(オーム社 1996)

山本 隆 (人間科学部 教授)  
脳と味覚：おいしく味わう脳のしくみ (ブレ  
インサイエンス・シリーズ 18) 山本隆著  
(共立出版 1996)

森本兼曩 (医学部 教授)、丸山総一郎 (医学  
部 助手)  
Quality of Life 医療新次元の創造 萬代隆、  
日野原重明編  
(メディカルレビュー社 1996)

鈴木不二男 (名誉教授)  
私の軟骨代謝研究 鈴木不二男著  
(1996)

—吹田分館—

河田 聡 (工学部・教授)  
光が創るマルチメディア新時代 河田聡他  
編著  
(三田出版会 1996)

黄地 尚義 (工学部・教授)  
溶接・接合プロセスの基礎 (溶接・接合選書  
第1巻) 黄地尚義著  
(産報出版 1996)

興地斐男 (工学部教授)  
Proceedings of the International Sympo-  
sium on Dynamical Quantum Processes  
on Solid Surfaces... ed. by Ayao Okiji, et  
al.  
(Amsterdam, Elsevier, 1996)  
DQPSS '95: proceedings of the Inter-  
national Symposium on Dynamical Quan-  
tum Processes on Solid Surfaces, Osaka,  
Japan, 20-22 September 1995. edited by  
Ayao Okiji et al.  
(Amsterdam, Elsevier, 1996)

—基礎工学部図書室—

橋本昭洋 (基礎工学部、教授)  
計算機アーキテクチャ (情報工学入門選書7)  
橋本昭洋著  
(昭晃堂 1995)

東稔節治 (基礎工学部、教授)  
生物化学工学 東稔節治編著  
(朝倉書店 1996)

—微生物病研究所図書室—

野島 博 (微研 教授)  
遺伝子工学の基礎 野島博著  
(東京化学同人 1996)  
遺伝子工学キーワードブック 緒方宣邦、野  
島博共著  
(羊土社 1996)

## お知らせ

### ○ 雑誌記事索引 CD-ROM サービス開始

附属図書館本館で雑誌記事索引 CD-ROMの検索サービスを開始しました。これは国立国会図書館が発行する『雑誌記事索引』冊子体を CD-ROM 化したもので、1990 年から現在までの情報を収録しています。本館では参考調査掛カウンター前の検索用パソコンで自由にご利用できます。生命科学分館および吹田分館での利用は、カウンターにお申し込み下さい。

### ○ インターネット広報に雑誌のページ新設・電子ジャーナルのサービス開始

附属図書館のインターネット広報（図書館ホームページ）に、「雑誌のページ」が新設されました。内容は、大阪大学の構成員だけが利用できる電子ジャーナル、及びインターネット上で自由に利用できる雑誌のコンテンツ・全文情報などへのリンクです。

電子ジャーナル・サービスは大阪大学に対し与えられた ID・パスワードを入力することにより、特定の雑誌の全文情報にアクセスできるサービスです。現在利用できるのは、Physical Review Letters Online 及び IOP (Institute of Physics) 発行雑誌の内、阪大で冊子体を購入している 8 タイトルです。詳細や利用方法等については、「雑誌のページ」をご覧ください。URL は以下のとおりです。

<http://www.library.osaka-u.ac.jp/others/zasshi.htm>

### ○ 大型コレクションについて

附属図書館では昨年度の大型コレクションとして、「日本を中心とした東西交渉史コレクション」を購入しました。これは 16 世紀から 19 世紀にかけての欧米人による日本及びアジア各地の地理・歴史に関する著作を集めたもので、多くの稀観書を含んでいます。このコレクションについては、11 月 11 日より 15 日にかけて、本館で展示会を開催する予定です。展示会の詳細については、図書館ホームページやカレントニュースでお知らせしますので、そちらをご覧ください。

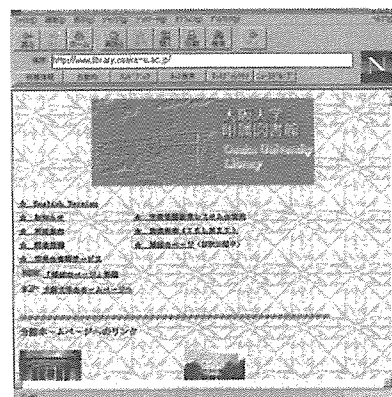
### ○ 人間科学部の相互貸借業務は ILL システムで

平成 8 年 5 月より、人間科学部図書室でも学内に所蔵しない資料のコピー等を取り寄せる場合、学術情報センターの ILL システムを使ってオンラインで依頼することが出来るようになりました。これにより、申し込んでから文献が届くまでの期間が短縮されます。また、逆に ILL システムによる他大学からの申し込みにも一部応ずることになりました。

### ○ 情報処理教育センター端末から図書館ホームページ利用可能

情報処理教育センターの端末で使用されている WWW ブラウザ「Omniweb」では、これまで附属図書館ホームページを正しく表示することができませんでした。このたび、図書館ホームページのデザインを一部変更し、正常な表示ができるようになりましたので、ご利用ください。

(図書館の新ホームページ)



### ○ 情報処理教育センター端末から図書館 OPAC も利用可能

図書館 OPAC (オンライン目録) も情報処理教育センター端末で利用できるようになりました。接続方法は、Terminal を起動して小文字で「opac」と入力するだけです。詳細については情報処理教育センターからのお知らせをごらんください。

■■■■ 会 議 ■■■■

図書館委員会

7. 19 (金) 13:30~15:10

1. 平成8年度予算配分について審議し、承認された。
2. 本館新築計画について審議し、平成9年度新規概算要求に提出することが承認された。

生命科学分館運営委員会

8. 7. 10 (水) 10:00~11:30

1. 分担金による購入雑誌についてのアンケート結果にもとづき、新規購入希望雑誌および中止雑誌について検討した。次回の当委員会で、見直し後の新規購入雑誌・中止雑誌を報告することになった。

8. 7. 23 (火) 10:00~11:30

1. 平成8年度生命科学分館製本費（関連部局図書室を含む）の予算配分について審議し、例年通り受入雑誌数の比率で配分することが了承された。

■■■■ 日 誌 ■■■■

H 8. 6. 7	本館新築計画検討ワーキンググループ	(本館)
6. 14	近畿地区国公立大学図書館協議会総会	(猿沢荘・奈良教育大学)
6. 21	近畿地区医学図書館協議会例会	(大阪医科大学)
7. 1	外国雑誌センター館会議	(東京工業大学)
7. 3 ~4	第43回国立大学図書館協議会総会	(神奈川県立県民ホール・横浜国立大学)
7. 10	生命科学分館運営委員会	(生命科学分館)
7. 15	分館長会議	(本館)
7. 16	図書館情報システム特別委員会	
	平成8年度第1回 ILL システム専門委員会	(生命科学分館)
7. 19	図書館委員会	(本館)
7. 25 ~26	ILL システム地域講習会	(本館)
7. 30	総合目録委員会	(学術情報センター)
7. 30 ~8. 1	目録システム地域講習会	(本館)